

1. 潮流・東北圏の課題・将来像コンセプト（案）	2. 戦略的目標	3 主要な施策→視点
【潮流・課題】 【潮 流】 ○経済社会情勢の大転換 →○本格的な人口減少社会の到来、急速な高齢化の進展 ○グローバル化の進展と東アジアの経済発展 ○情報通信技術の発達 ○国民の価値観の変化・多様化→○安全・安心、環境や美しさ、文化に対する意識の高まり (地球温暖化防止、大規模災害への備え、景観・文化芸術への欲求) ○ライフスタイルの多様化、「公」の役割を果たす主体の成長 【東北圏の課題】 ①産業の活性化、競争力ある産業の振興 ・地域内雇用を創出する地域循環型経済システムの構築、・地域内発型の新産業創出、産業高度化、高付加価値化、 ・エネルギーの安定供給、・1次産業の維持・強化、・主要な都市や生産拠点等を結ぶ交通・情報通信ネットワークの構築 ②グローバル・ゲートウェイの整備 ・国際交流・連携と海外展開のための基盤整備、・都市間距離の克服、・戦略的、効率化な国際物流の実現 ③自然環境との共生、資源循環型社会の構築 ・再生可能エネルギー利用の推進、・リサイクルの推進・生態系の維持、自然環境の保全、 ④美しい東北の国土の維持・継承・活用等 ・自然資源の保全と活用 ・美しい風景の維持・保全、・国土の管理、歴史文化の保全・発信 ⑤人口減少社会を見据えた圏域づくり ・中山間地域や沿岸部を中心とした人口減少・高齢化の対策、・農山漁村、中山間地域の維持・再生 ・冬季安心確保、・雪の活用、 ・災害に対する備え、・情報通信格差の解消、中心市街地の活性化、都市と農山村の共生、・生活圏域内の快適なモビリティの確保、 ・地域医療の支援、・財政制約と行政サービス、・公共投資・公共部門の縮小 ⑥若者の定着、人材育成 ・地域の再認識、・意識改革、・地域活動・参画の仕組みづくり、・人材育成と活用、情報発信	A 恵み豊かな自然と共生する環境先進圏づくり B 雪にも強く安全で安心して暮らせる温もりのある人に優しい圏域づくり C 地域資源を活かした世界に羽ばたく産業による自立的な圏域づくり D 交流・連携機能の強化による世界に開かれた圏域づくり E 東北圏民が一体となって地域を考え行動する圏域づくり	①地球環境保全のための低炭素・資源循環型社会の構築 ②自然や美しい四季に彩られる森林や田園風景の継承 ③流域圏に着目した国土の保全と管理 ④海洋海域の利用と保全 ①災害に備えたしなやかな圏域の形成 ②冬季を安心して暮らす工夫、雪の有効活用 ③都市機能が充実した活方ある都市の形成 ④暮らしやすい農山漁村の形成 ⑤都市と農山漁村が共生する圏域の形成 ①東北圏の強みを活かした持続可能な産業の育成と集積の推進 ②地球に優しい安定したエネルギー供給圏の形成 ③東北圏の総合力を支える持続可能な農林水産業の創出 ④歴史・伝統文化、自然などの地域資源を活かした国際的な観光交流の推進 ①多様で重層的な交通・情報ネットワークの形成 ②国際的な交流連携を支援するグローバル・ゲートウェイの機能強化 ③戦略的・効率的な国際物流の実現 ①圏域意識を高め自立を促す取組の推進 ②地域づくり協働体の構築 ③東北圏を支える人材の育成と活用
【将来像コンセプト案】 案：森と海と人の恵吹を感じるいきいきとした「東北にっぽん」の創造 東北圏では、人口減少、高齢化が進展してきており、地域の活力低下や財政制約など経済的にも社会的にも様々な課題が発生し、地域社会の存続に大きな影響が生じてくることが予想されている。 また、経済のグローバル化の進展や東アジアの経済成長、世界的な課題である地球温暖化や世界人口の急増による食料やエネルギー等の資源の不足による影響も避けて通れない。 こうした新たな時代の潮流の中で、中長期的な視点から、地方分権型の社会を推進するとともに、将来に向けて計画的な対応を図っていく必要がある。東北圏の各地域では、自らの地域の課題と将来像を共有して、その地域の状況に応じた施策を自らの責任の下に選択を行い、地域経営に一体となって取り組まなければならない。これを怠れば地域社会の存続の危機が訪れる可能性がある。 東北圏は、美しい太平洋と日本海に面し、南北に貫く脊梁山脈や起伏に富んだ山地と大きな河川や深い森林の中で、豊かな自然と水資源に恵まれ、安全な食料とエネルギー等の資源を供給できる機能を有しているほか、優れた人材や技術、食文化やものづくり、様々な産業振興に向けた取組をはじめ、大切に守り続ける伝統的で特徴的な祭り、雪文化や伝統工芸など、独特の歴史・文化が力強く残っており、人情味ある人々が織りなす潤いと豊かさがあふれている多様性を持った地域である。 東北圏広域地方計画では、こうした東北圏の持つ優れたポテンシャルを活かしながら、東北圏を支える人々が才能を発揮し、国内外の人々との交流・連携を進め、新たな潮流に対応・貢献できる多様で自立した地域社会を形成することで、美しい自然と様々な国の人や多くの世代が光り輝く、森と海と人の恵吹を感じるいきいきとした空間を創りあげていくことを基本目標とする。これにより、東北圏の人々が、コミュニティにおける人と人との温かいネットワークを基礎に、自信と誇りを持って安心して住み続けられるとともに、訪れる人々が安らぎと温もりを実感できる「東北にっぽん」というブランドを創出する。 本計画は、東北圏内の住民、NPO、経済界、関係行政機関にとどまらず、東北圏に関わる全ての人々に対して指針を示すとともに、今後とり組むべき施策を明確にするものである。 【人と自然が共生し地球に優しく生命力あふれる空間】 ①東北圏の有する豊かな自然を守り自然環境を維持・再生できる圏域、自然の恵みを有効に活用し、人と自然が共生し、人間が暮らしていく上で基本となる生活が営める生命力あふれる圏域、地球温暖化対策への貢献を先導するモデル圏域を創りあげる。 ②東北圏特有の豪雪や地震・津波、水害などの自然災害に対しての備えや、各生活圏域における医療・福祉、教育等を充実させるとともに、地域の役割分担に基づいた広域的な連携を図ることで、子供から高齢者までが豊かで安定したいきいきした暮らしができる圏域を創りあげる。 ③都市的サービスを受けられる都市と食料と食材と自然の宝庫である農山漁村とをネットワークで結び、都市と農山漁村が共生する地域社会を形成し、歴史や伝統・文化等の地域資源を活かすことで、人・情報・物等が集う生命力あふれる空間を創りあげる。 【自立的・持続的な成長を実現する経済圏】 ①東北圏の多様な地域資源を活用し、知と技と広域的な連携によるイノベーションや国内外のネットワークの構築等により、国際競争力を持つ産業群の形成や地域特性を活かした産業の集積、地域内発型産業の創出・育成等を図る。このことにより、若者から高齢者まで生き甲斐を持って働ける自立的・持続的な成長を実現する経済圏域を創りあげる。 ②東北圏の有するポテンシャルを活かし、地球に優しく安定したエネルギーを供給する圏域を創りあげる。 ③安全で安心な食料を生産し供給できるポテンシャルを活かし、持続可能な農林水産業への転換を図る。 ④多様な地域資源の再発見と活用により創出される食と観光などを通し、新たな価値観やライフスタイルに対応した、特色のある地域を形成することで、国内外から多くの人が訪れる観光交流圏を創りあげる。 ⑤太平洋と日本海を繋ぎうる特長を活かし、圏域内外のグローバル・ゲートウェイと圏域内の主要な都市や生産拠点等を結ぶ多様な交通・情報通信ネットワークを構築し、国際業務機能の高次化と集荷力向上による定期路線・航路の充実等を通じて利便性と効率性を高め、東アジアなど世界各地と躍動感あふれる国際交流・連携を行うことで世界に開かれた圏域を創りあげる。 【一人ひとりの自立意識と協働で創る東北圏】 ①東北圏の一人ひとりが地元について学び、地域資源を再認識することで、自信と誇りと郷土愛を持ち、地域の将来を担っていく意識を高める取組を促進する。 ②多様化する地域課題に対応し地域社会の再生・活性化を図るため、住民、NPO、教育機関、企業、行政など多様な主体による地域づくり協働体等を構築するとともに、東北圏の有するコミュニティの人と人との温かいネットワークを大切に育て、東北圏における伝統と歴史に育まれた地域社会を粘り強く創っていく。 ③地域の将来を担う人材の育成を促進するとともに、外部人材の積極的な活用を図り、多様な人材が支える東北圏を創りあげる		